

# 2008年度「岩手大学公開授業講座」について

岩手大学地域連携推進センター 藤澤 建二

## はじめに

2005年度後期に導入した「公開授業講座」は<sup>1)</sup>、「公開講座」の一環として、学生向けに開講されている授業に、社会人等の聴講を受け入れるものである。正規の授業に社会人等の受講を認める制度としては、従来から「科目等履修生制度」があるが、「科目等履修生制度」は履修単位の認定を行うもので、従って履修の認可は教授会審議事項であり、また、経費も検定料・入学料・授業料の納入が必要となる。それに対して「公開授業講座」は、「公開講座」の一形態として位置付けられており、単位認定は行われない。

本稿は、「公開授業講座」の2008年度の実施状況と、2008年度後期受講生に対するアンケート調査結果を報告するものであるが、その前にこの間の総括的な実施状況をまとめておこう。

表1で、「教員数」は授業科目登録上の数で、実際にはもっと多くの教員が携わっている。「延受講者数」は、各授業科目への受講者総数である。また、「実科目数」は、受講者のいた授業科目数を表す。

傾向的には、受講者が徐々に増えてきており、当講座が確実に定着してきているものとする。また、当講座受講を契機に

「科目等履修生」への移行者もあることは、特筆すべきであろう。

(注)

- 1) 岩手大学における導入経緯については、藤澤建二「『岩手大学公開授業講座』について」(『岩手大学生涯学習論集』第2号、2006年、所収)を参照。

表1 公開授業講座の実績総括表

前後期 年度	前 期			後 期			
	06	07	08	05	06	07	08
授業科目数	46	72	74	38	69	67	67
教 員 数	37	50	51	28	51	52	49
受 講 者 数	36	22	42	17	27	19	31
延受講者数	59	29	60	25	41	25	45
実科目数	21	23	32	17	22	17	24

## 2008年度「公開授業講座」の概要

### 1. 前期「公開授業科目」

前期「公開授業講座」の授業科目(以下、「公開授業科目」)は、学内教員への公募の結果、51名の教員<sup>2)</sup>から74科目が登録された(昨年度は50名・72科目)。その一覧は表2の通りである(授業科目名と難易度のみを示す)。

なお、難易度は表3のように設定されている。

表1 2008年度前期「開授業科目」

	公開授業科目名	難易度		公開授業科目名	難易度
1	ロシア文学講義	A	38	教育評価	A
2	英米文学特別講義	A	39	発達心理学	A
3	漢文学概論	A	40	養護学校教育課程論	B
4	日本の文学	B	41	特別支援教育概説	A
5	日本文学講義	B	42	理科教育法(小)	A
6	日本語教授法	B	43	自然のしくみ	A
7	言語習得論	A	44	物質の世界	A
8	異文化理解	B	45	宇宙のしくみ	A
9	日本史普通講義	A	46	放射線環境論	A
10	日本史特別演習	C	47	地球規模環境論	A
11	古文書学	C	48	宇宙地球進化論	B
12	日本の思想と文化	A	49	物理学	A
13	哲学の世界	A	50	生物学	A
14	倫理学普通講義	A	51	被服学	A
15	応用倫理学講義	B	52	被服学実験実習	A
16	環境倫理学	A	53	健康と衣生活	A
17	ジェンダー文化論	B	54	論理回路	C
18	ジェンダー文化論特講	B	55	エンジン工学	B
19	男女共同参画の実践を学ぶ	B	56	ビークル工学	A
20	憲法	B	57	電気数学	A
21	人権と教育	B	58	電磁気学	B
22	民法(総則)	B	59	高電圧パルスパワー工学特論	C
23	民法(家族法)	B	60	木材工学	B
24	行政法(作用法総論)	B	61	交通計画学	B
25	知的財産法(特許法)	B	62	福祉人間工学	B
26	特許法特講	B	63	砂防学	B
27	人文地理学	A	64	基礎天然物生化学	C
28	地域と民族	A	65	食品関連法規	C
29	地域と生活	A	66	食品化学	A
30	現代社会と経済	A	67	食品工学	B
31	社会保障論	A	68	生産基盤機械学	A
32	地方財政論	B	69	植物栄養・肥料学	B
33	岩手大学ミュージアム学	A	70	動物食品学	B
34	音声学	A	71	動物栄養学	A
35	声楽	A	72	飼料作物学	B
36	心の科学	A	73	昆虫機能利用学	B
37	心理測定	B	74	水資源プランニング	B

表3 「公開授業科目」の難易度（「公開授業講座」案内チラシより）

A	入門的な内容で、高等学校卒業程度の学力を必要とするもの （入門的とは、大学生がその分野で初めて受講する、という意味です。イメージとしては1年次学生向けですが、実際には2～4年次向けの場合もあります。）
B	より進んだ内容で、当該分野についての一定の基礎知識を必要とするもの （その分野に関するある程度の基礎知識がないと、理解するのが難しい場合があります。）
C	高度な内容で、当該分野についての一定の専門知識を必要とするもの （その分野に関する系統的な知識がないと、理解するのが難しい場合があります。）

これらの「公開授業科目」について、受講希望を募ったところ、32科目に42名が受講登録した。延べ受講者数は60名であった。受講者の構成は表4の通りである（年齢は申込時）。なお、青森県八戸市からの受講者もあった。

表4 2008年度前期受講者の構成

性別	男：11 女：31	平均年齢	54.7歳
年齢構成	30代：6 40代：7 50代：11 60代：16 70代：2		
最低・最高年齢	32歳～79歳		
職業	無職(含む主婦)：27 会社員・公務員(含む非常勤)：4 自営業：4 その他：7（薬剤師、介護福祉士、家裁調停員等）		
居住地	盛岡市：34 花巻市：2 滝沢村：2 その他：4		

居住地のその他は、二戸市、矢巾町、金ヶ崎町、八戸市（青森県）である。

(注)

2) 複数の教員が担当する科目があるため、実際に携わった教員数はもっと多い。

## 2. 後期「公開授業科目」

後期「公開授業科目」は、49名の教員から67科目が登録された（昨年度は52名・67科目）。その一覧は表5の通りである（授業科目名と難易度のみを示す）。

表5 2008年度後期「公開授業科目」

	公開授業科目名	難易度		公開授業科目名	難易度
1	英米文学特別講義	B	35	教育心理学	A
2	漢文学講義	A	36	生涯発達心理学	A
3	日本の文学	B	37	教育心理学演習	B
4	日本文学講義	B	38	障害児教育指導法	B
5	言葉の世界	A	39	障害児教育教材・教具論	B
6	言語習得論	A	40	障害児教育特講	A
7	日本の思想と文化	A	41	地域保健	A
8	欧米の思想と文化	A	42	数理のひろがり	A
9	社会文化思想論	B	43	自然と数理	A
10	社会文化思想論特講	B	44	自然と法則	A
11	環境文化論	A	45	物質の世界	A
12	環境文化論	B	46	宇宙のしくみ	A
13	ジェンダー文化論	A	47	入門物理学	A
14	ジェンダー文化論特講	B	48	物理学	A
15	社会文化論	A	49	生物学	B
16	英語構造論	B	50	分子生物学	C
17	日本語教材論	B	51	化学	A
18	多文化コミュニケーション B	A	52	科学技術英語	B
19	日本史普通講義	A	53	被服学	A
20	中世日本文化特別演習	C	54	被服学実験実習	B
21	古文書学	C	55	生活素材実験	B
22	民法（総則）	B	56	応用電熱工学	B
23	民法（家族法）	B	57	情報表現演習	A
24	行政法（救済法）	B	58	マイクロコンピュータ応用実習	B
25	法律学特講 C	B	59	有機化学	B
26	知的財産権概論	B	60	栄養化学	B
27	人文地理学	A	61	美味学	B
28	現代社会と経済	A	62	食品生産システム学	B
29	社会保障論	A	63	植物生理学	B
30	農業経済論	B	64	食品学	B
31	職業能力開発論	A	65	食品保蔵学	B
32	スポーツ医学	B	66	植物育種学	B
33	合唱の指導	A	67	植物ストレス応答学	B
34	対人関係の心理学	A			

これらの「公開授業科目」について、受講希望を募ったところ、24科目に31名の受講登録があった。延べ受講者数は45名であった。受講生の構成は表6の通りである（年齢は申込時）。

表6 2008年度後期受講生の構成

性別	男：5 女：26	平均年齢	55.3歳
年齢構成	20代：1 30代：3 40代：5 50代：7 60代：14 70代：1		
最低・最高年齢	25歳～79歳		
職業	無職(含む主婦)：21 会社員・公務員(含非常勤)：2 自営業：1 その他：7 (薬剤師、家裁調停員等)		
居住地	盛岡市：22 滝沢村：3 その他：6		

居住地のその他は、花巻市、二戸市、宮古市、矢巾町、金ヶ崎町、気仙沼市 (宮城県) である。

なお、後期受講生31名のうち、24名は前期も受講している。

#### 2008年度受講生アンケート調査結果

後期の授業終了後、受講登録者を対象に、郵送によるアンケート調査を行った (2月)。以下はその集計結果である。なお、アンケート票は、「公開授業科目」毎に配布したが、回収数は36であった。

回答者の属性			
性別	男：5 女：31		
年齢構成	20代：5 30代：3 40代：3 50代：6 60代：18 80代：1		
学歴	中卒：1 高卒：5 短大・高専卒：6 大卒：24		

<p>受講理由 (この授業科目を受講された理由は何ですか) ・複数回答</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 趣味などを深めたいと思ったから..... 4</li> <li>2. 新しいことにチャレンジしたかったから..... 5</li> <li>3. いまの仕事に役立つ知識などを得たかったから..... 7</li> <li>4. 教養を広めたい・高めたいと思ったから.....18</li> <li>5. その他..... 8</li> </ol>
---

受講理由の「その他」の回答は、「今後の職業生活に必要な視点がえられると思ったから。」「戦時中であまり教育されなかったから。」「自分が学生時代にこのような分野の授業がなかったので、以前から勉強したいと思っていた。」「この分野をきちんと学びたかったので。」「障害児を1年間お世話した経験があったので。」「50年前の (自分の子ども時代) 自然環境から現在の変化をどうとらえるか?」「授業の目標に書かれていることに興味が

あったから。」「前期の授業で中国からの留学生と友達になり、もっと中国のことを知りた  
いと思った。」などであった。

授業科目に付いていた難易度

A : 16    B : 18    C : 1    NA : 1

受講してみたの難易度 (実際に受講してみたの難しさはいかがでしたか)

1. 思ったより易しかった..... 3
2. ちょうどよかった.....18
3. 少し難しかったが大体理解できた.....12
4. 難しすぎてほとんど理解できなかった..... 2

「ほとんど理解できなかった」は難易度との科目であった。

出席状況

1. 全部出席した.....12
2. ほとんど (2/3以上) 出席した.....18
3. 半分以上出席した..... 1
4. あまり出席できなかった..... 2
- 5.途中で止めた..... 2

「半分以上出席した」の理由は、「家庭の事情でやむを得ず」というものであった。「あ  
まり出席できなかった」の理由は、「都合が悪くなり」であった。また、「途中で辞めた」  
の理由は、「健康上の理由で入院したため」と「難しすぎてついていけなくなった」であ  
った。後者は難易度との科目で、「申し込んだことに無理があったと反省しております」と  
のコメントがある。

目的達成度 (この授業科目を受けられた最初の目的はどれくらい達成されましたか)

1. おおいに達成された..... 6
2. ほぼ達成された.....25
3. あまり達成できなかった..... 4
4. ほとんど達成できなかった..... 1

概ね、受講目的は達成されていると受けとめているが、「あまり達成できなかった」のは、一人は「思ったより易しかった」ためと思われる。もう一人は「都合が悪くなり出席できなくなった」ためである。そして一人は「難しすぎてほとんど理解できなかった」であり、最後の一人は「自分の努力が足りませんでした」とコメントしている。

最後に、要望や感想を自由に記述してもらった。

以下には、感想を採録する。ただし、なるべく授業科目名や受講生が特定できないように、一部を省略したり表現を変えたりしている。

#### 自由記述欄から

「受講させて下さいましてありがとうございます。基礎知識不足のため理解が及ばないところもありましたが、それを埋めるため、自分なりに参考書を求めて勉強いたしました。講義の中では“なぜか、そしてその答”がたくさんあり“ああそうか感”をえることができ、偉大な生命の営みが少しずつ理解できました。私の場合、園芸や野菜作り、日常の食生活、孫達の世話等に役立っています。自分の子と同年代の方々と同席させていただき、これも元気の源になりました。ありがとうございました。」

60代、女性

「学生中心のカリキュラムのため、社会人のための公開講座を設けて欲しい。レポート作成、発表には参加できないので。時間設定、内容、目的等。テーマ設定により人が集まるのではないかと。ただ、講義内容は非常に興味深いものであり、純粋な気持ちで知りたいと思うだけで授業を受け、新しい発見と知識を得られ、なおかつ講師の考え方や物事の見方に触れることが、これほどの大きな喜びをもらえるとは幸せなことでした。受講して本当によかったと思います。夕方開講のメニューが増え、料金がもっと低ければうれしいです。前期もぜひ受けたいと思います。」

40代、女性

「毎時、教わるが多く、充実感がある。日本文学への常識的な従来の固定観念が崩された。学者の評論などが紹介されることで、視野が広がられた。先生は年代の異なる受講生をまじえることで、ご苦労なさっておられると思う。受講の機会が与えられたことを感謝いたしております。」

60代、女性

「この企画に感謝します。とても有意義で楽しい学びでした。遠くから早朝に行くため、やはり休講の確認が当日前にできないのは不安。」

60代、女性

「私は歴史が好きなので、中世史のお話を岩大の教授からお聞きできてたいへん嬉しかった。この講座のことをもっとPRされたらよいと思います。」

80代、女性

「来年度の公開授業講座の希望。日本語の音声、社会言語学、日本語の文字表記」

50代、女性

「深く広い内容の講義でとても満足しています。」

60代、女性

「きめこまかくテンポ良く、わかりやすい講座を受講できうれしかったです。ありがとうございました。先生がていねいに、わかりやすく、簡潔に、テンポよく授業をされたので、大変良かった。毎回楽しみでした。資料の準備、参考図書を紹介も親切でした。同じく受講されている学生・院生さん方が礼儀正しく、授業中の受け答えもはっきり、きちんとされていたとが大変気持ち良かった。社会人の私達にもあいさつ

やお話しも気軽にいただき大感謝でした。昨年末、少し、工事で外がうるさかったことがあったことは残念でした。教室が替わり教育機器がないところで大分不便でした。小・中学校でも使用されている教育機器は、大学ですので、いつでもどの室でも活用できるようにしたら良かったと思います（でも先生は、板書をフルになさいました。）

60代、男性

「講座にはあまり出席できませんでしたが、非常に勉強になりました。機会があればまた受講させていただきたいと思います。」 40代、男性

「このような機会があることに感謝しております。60歳を過ぎ、時間の余裕ができ、ふり返ると余りにも知らないことが多く、知識を少しでも入れて考える範囲を広げたいと思って受講しています。ひとりで本を読んでも理解しにくく、授業を直接聴くことの方が良いと思っています。」 60代、女性

「先生はパワーがあって知識の他に元気も頂きました。来年度も聴講したいので、資料お送り下さい。金ヶ崎からの参加でしたが、距離感も余り感じず楽しかったです。」 60代、女性

「学びたい者に対して門戸が開かれていることを喜びに感じました。」 60代、女性

「全ての授業を受けたいと思っていましたが、仕事などの都合で、半分も出席できませんでした。先生の授業はパワーがあり、聞き入ってしまいます。内容的にも具体的な例をあげて、わかりやすく、実感をもてる内容でした。ありがとうございます。」 50代、女性

「とても楽しく参加させていただきました。学生時代敬遠していたシェイクスピア作品が、こんなに奥深くて美しいとは驚きでした。また4月から楽しみにしています。ありがとうございました。」 30代、女性

「大学の講座が市民にも開かれていることにまず感謝申し上げます。先生は適確で簡潔な表現で授業をすすめられ、資料も親切なものですから、これからも大切に使いたいと思っています。」 60代、女性

こうしたアンケート調査結果からも、「公開授業講座」が市民の多様で高度な（大学レベルの）学習ニーズに応える上での有効性を確認することが出来るとともに、市民の熱い期待をも感じとることができる。その期待に応えていくためには、「公開授業科目」のメニューをさらに豊富にする必要がある。「公開授業科目」に登録したからといって、直ちに受講生と出会えるとは限らないが、市民の学習ニーズは本来、個別的で多様であるので、それらの学習ニーズに応えるためには、多様なメニューを選択肢として提供することが不可欠である。まだ数は少ないとはいえ、かなり専門的で高度な授業科目にも、目をつけてくれる市民がいる。その意味では、多様なメニュー自体が、市民の新たな学習ニーズを誘うという相乗効果も考えられるだろう。

なお、運営上では改善が必要なことも多々ある。とりわけ、休講の連絡はなかなかうまくいっておらず、工夫が必要であろう。